

2022.3.3 (木)
第28回例会
(通算3655回)

2020-2021年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン『我がロータリーを楽しむ。我が地域を育む。』

第85代会長 杉村 莊平
副会長 浅川 正紳
幹事 市橋 多佳丞
編集責任者 クラブ会報雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町5-3 ミツ輪ビル2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2021-2022年度
国際ロータリーテーマ



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021-2022年度
RI会長 シェカール・メータ
第2500地区ガバナー
漆崎 隆 (釧路ベイRC)

月間テーマ	水と衛生月間
本日のプログラム	会員卓話「元町おてら食堂をはじめとする地域活動」(担当：プログラム委員会)
次週例会	RIの現状について(担当：理事会)

- ロータリーソング：君が代、奉仕の理想
- ソングリーダー：佐藤 貴之君
- 会員数 103名
- ビジター なし
- ゲスト なし

会長の時間 杉村 莊平会長



皆さん、こんにちは。お食事の方はお続けください。3月に入りまして、多少暖かくなってきたと思っておりますが、まん延防止期間が残念ながら延長になってしまいました。そうはいつても4月には、気持ち良く暖かい春を迎えられることを信じて引き続き前を向いてしっかりやっていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

また、長くは述べませんが、ロシアによるウクライナ侵略については大変な事態になっていると思っておりますが、世界平和を希求するロータリーとして、またひとりの人間としても、この事態が速やかに終息することを強く願いたいと思っております。ご理解いただければと思います。

本日は、3月3日ということで、桃の節句でございます。本日であれば、この話を話題とするところがありますが、この話はスルーいたしまして、3月7日が「サウナの日」と見つけました。少し無理がありますが、サウナの話題をしたいと思っております。

昔は、サウナと言えはちょっと怖いおじさんがいらっやあって、なかなか行きづらい雰囲気があったと

思いますが、最近は若い人中心に『とどのう』というキャッチフレーズの下に大変なサウナブームになっております。我が家もちょうどそのくらいの息子がいて、息子の影響があり、ここ1～2年、釧路近郊のサウナを少し開拓させていただいておりました。

皆さん行ったことがあるかもしれませんが、塘路の駅前に『THE GEEK (ぎぎく)』というゲストハウスを兼ねたサウナがありまして、釧路湿原をドーンと目の前に眺めながら休む場所もあり、サウナと水風呂を楽しめる場所があります。

経営しているのが東京の上場会社を辞めて行っている達川さん、まだ30歳ぐらいの若い方です。人と人が集まる場所を作りたいとして、この場所にたどり着いたというお話です。

僕は今年の12月ぐらいに行きましたけれども、その時も大阪から来た5人組の大学生と静岡から来たおじさま1人が一緒になりまして、それはそれで、このサウナに感動をして「本当に素晴らしい」とお話をしていました。その後、達川さんと少しお話をしましたが、「まだ開業をして1年と少しですが、少しずつこの地域にも慣れてきて交流も増えてきた。弟子屈のまちおこし協力隊の川上さん(先日こちらの例会にも来ていただきました、例のUHBを辞めて来られた方です)なども交流があって、地域活性化のアイデアを出し合いながら一生懸命頑張っています」という話をしておりました。

そうこうしているうちに新聞を見ていますと、今度は鶴居の小学校の跡に、これも「本州から来た方がクラフト工場を立ち上げる」という記事も拝見しました。厚岸のウイスキーから釧路・根室の地酒とコラボしながら行っていくと素晴らしい観光資源になるのではないかと考えております。

以前も話をしましたが、このような地域活性化の種を大きく育てられるかどうかは、われわれ地域住民の温度の高さ・民度になってくるかと思いますが、また、無理くりですが本日の藤井さんの『元町青年団』の活動とはこの地域の民度から生まれたものと思っておりますので、われわれもこの活動をもっと応援していく、温度を高めていきたいと思っております。

元町青年団ということで、この「元町」という名前のご存じのとおり釧路地域には元町という地名はありませんが、釧路地域発祥の地を総称して元町という名前を付けたと聞いております。

この元町という存在しない地名つながりで、最後にひとつウンチクをご紹介します。終わりにしたいと思います。

実はトヨタ自動車発祥の地が愛知県の豊田市になります。この豊田市に昔からあるトヨタの主力工場がありまして、これが『元町工場』と言います。豊田市に元町という名前がないのになぜ元町工場か、ですが、これが「いい話」でして「もと・まち」でしょ。『元町工場』なのです。トヨタの創業者が「いくらトヨタが大きくなってでも町工場だった時の精神を忘れるな」という意味で主力工場に元町工場という名前を付けたということです。

また、無理くりですが、元町青年団の活動も釧路の歴史をしっかりと受け継いで、引き継いで行こうという思いから生まれたものだと思いますので、少しニュアンスが違うかもしれませんが、このトヨタの思いと共通の思いがあるのではないかとと思っております。今日の話の締めさせていただきます。本日の話を楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

幹事報告 市橋多佳丞幹事



皆さま、こんにちは。幹事報告をさせていただきます。他クラブの例会につきましては、お手元の例会案内をご一読ください。東クラブ、ベイクラブの「せいせい」の「せい」の文字が間違っておりました。生きるという文字ですので訂正をお願いいたします。

また、3月のロータリーレートは、1ドル116円

となっております。

昨日、事務局より会員の皆さまへ案内をさせていただきました「迷惑メールが非常に横行している」という問題です。会員の中にも「何件か来た」という方がいらっしゃると思います。非常に悪質な内容、化けることがうまい、地区のガバナー事務所の名前を語って添付ファイルを開かせる内容になっているものがあります。とても近い、少し勘違いをしやすい内容になっていきますので、ぜひ皆さま、パソコンでメールを受信した際には、メール自体を見ただけでは感染はしないと聞いておりますので、送信者をだけではなく、添付ファイルを開かれる前には内容、文面等をしっかりと確認をした上で、ご自身で安全を見守っていただければと思っております。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

■本日のプログラム■ 「元町おてら食堂をはじめとする地域活動」

大成寺副住職 藤井 敬亮君



ご紹介に与りました大成寺の藤井敬亮でございます。持ち時間が25分の中でどこまでお伝えできるか分かりませんが、先ほど会長からお話があったように『元町青年団』、その活動の一環で、青年団の活動ではありませんけれどもいろいろ関連してございます。そのようなところをご紹介します。深い話をすると時間が足りないので、本当にこの場ではご紹介という感じになるかと思っておりますけれどもお付き合いください。『元町おてら食堂をはじめとする地域活動』ということでございます。

私がこのようなことをいま行っています。具体的に5つありまして、『元町青年団活動』『元町おてら食堂』『釧路元町てらこや』『元町講座』、そして『くしろフットパスを広め隊』と、このような団体活動を行っております。

先ほど、ご紹介があった「元町青年団活動」は2015年から始めていますけれども創立以来、関わっています。でも、私は青年という立場ではありません。中心で動いていらっしゃる方は30代前半の方です。私としては、少し渋い意見を言ったり、「頑張ってそれをやってみたらいいじゃない」というような立場で、極力協力をする立場で、この青年団の活動に携わらせていただいております。

『元町おてら食堂』が本日の主題ですが、これは、私が言い出しっぺで始めました。この元町青年団で知

り合った方と組んで行いましたけれども、これが足かけ6年続いています。

「元町てらこや」も閉園した明照幼稚園、前の藤井正信がこの会員でしたけれども、閉園をした明照幼稚園を2019年から活用して子どもたちを集めて毎週土曜日に開催をしております。

「元町講座」、これは元町青年団から派生したイベント、講座です。

「くしろフットパスを広め隊」、これも元町青年団発足時から釧路公立大の学生さんや教授と共同で「フットパスをやろう」と進めてきた事業です。

これが、いわゆる元町です。元町という地名はありませんけれど、強引に元町という名前を付けさせていただきました。この左下に米町・寺町という所がございます。そこをアップすると、赤丸で囲んだ所、もう分かると思いますけれどもお寺と神社。下の方に4つ重なっていますが、下から「西端寺」さん、そして「定光寺」さん、そして「大成寺」、ウチです。そして日蓮宗「法華寺」さん、その上は「巖島神社」。向かいの方には菅原さんの「本行寺」さんと「聞名寺」さんがあります。これがだいたい元町青年団というか、私が活動している足元、地域となりましょうか。

さらにアップします。これが大成寺の航空写真です。下の方に赤い屋根、園庭があります。そこが、明照幼稚園があった所。とても広い園庭です。この園庭では毎年、夏になると町内会の盆踊りなどの催しは何十年も前からここで開催されておりました。その幼稚園の園庭の上の方に寺があり、本堂と左側に3階建ての納骨堂がございます。この1階が広い会館になっております。そこでは昔、葬儀などを行っておりましたけれども、いまは大手の葬儀会社の会館でとなり、ほとんど使うことがなくなりました。

場所もある、キッチンもある、すべて設備は整っているのになかなか利用されない。活用されないもどかしさがありました。明照幼稚園は64年続き、根付いておまして地域の人々に親しまれていたという自負があります。やっぱり寺があって、寺町であって、そこでみんな育まれて、そしていまこのように大きな大社などに育っていったという歴史がある場所と思わせていただきました。

ここを活用しよう。やっぱりこの地域を活性化させるには、特色である寺が動かなければいけないだろう。そう思って始めた様々な活動でございます。

「元町おてら食堂」です。2017年9月に元町おてら食堂実行委員会を立ち上げる。隔月に1回、毎月ではありません。毎月だと辛くなります。持続可能なやり方で行っております。隔月に1回開催、現在16回活動。当初、「大成寺」「釧路市社会福祉協議会」「釧路市包括支援センター」「釧路市生活相談センターくらしごと」の4団体で立ち上げました。後に、このよ

うなことを行うけれども協力をいただけるかと、「まちおこし」さんにもお話をしてお待ちしておりました。「本行寺」さん、そして「元町青年団」があと付けで参加をされて、いまは仲良く活動をさせていただいております。調理スタッフはすべてボランティア、現在20名ほど登録をされていて、ボランティアと言っても昔から地域にいるおばちゃん方です。僕の小さいころも知っているような同級生のお母さんなどが集まって、キッチンスタッフとして参加してくださっております。その他、「道警学生ボランティア」、北海道警察の方でもご理解ご協力をいただきまして学生ボランティアを連れてきてくれます。檀家や地元企業からの食材等の提供なども度々ございました。小規模なフリーマーケットのコーナーなどを設置して賑やかに行っていたところです。

会場を他の寺院に代え、寺町全体の活性化を目指してできればいいなということです。そのような活動が大まかな概要です。

これは、第1回目の食堂が終わった時に、私個人のSNSで投稿した文章です。自分でもうまくまとまったと思いながら書きましたので、ここで紹介をさせていただきます。

過疎地域での多世代地域交流を目的に初の『おてら食堂』が開店しました。開店直前からたくさんのお客様。用意したメニューは、あっという間に売り切れ、80食以上は出たようです。閉店予定の14時まで持ちませんでした。古い写真や遊びコーナーも好評でした。大成寺の宣伝イベントではなく、月に1回くらいの地域の居間として福祉情報・地域情報の発信の場を目指します。近隣のお寺の会場を借りて共同開催ができればいいなとも思います。将来の夢ですが、ということです。まだこの時は広がっていませんでした。大成寺の過疎地域の悩みである独居・高齢者の引きこもり・若年層の貧困・単身者の会話不足などは、地域住民の定期的な顔合わせによる情報交流によって多くの問題の解決の糸口となるのではないのでしょうか。包括センターさん・社協さん・くらしごとさん・お檀家さま、皆さんの温かい慈悲のお気持ちで初回が大成功となりました。ありがとうございました。改めてお礼とこれからのご協力をお願いしましてご報告いたします。ということでもあります。

この地域福祉に特化した団体が集まっております。包括センターさんは、お年寄りなどに詳しい方。社協さんは、福祉全体。くらしごとさんは経済困窮者の支援センターです。そのようなところから知恵や人脈をつないでいただき、協力をして行っていたいております。

簡単な目的としては、全体を包括すると地域活性化が目的。もうこれに尽きます。地域の公共資源としてお寺を活用していただけたらいいなということ。地域の

明るい話題として多世代交流の場づくり、居場所づくり、情報提供の場、を目的としております。

一番下に書いてありますけれども、このようにどこかで活動していることが、「自分が住んでいる地域で何かを行っている」と聞くだけでもその地域の人は、この地域は生きているなど感じると思います。そのように「生きている地域に住んでいる」という実感を持ってもらうということで、ささやかな活動ではありますけれども続けて行って行かせていただけたらなと思っております。

会議と進行、ふた月に1回ですから「開催日を始め」とすると、それから1週間以内に振り返りと次回内容、次々回の開催場所の決定。次の開催日の1週間ぐらい前には直前内容を確認・決定。在庫確認・買い出しリスト、前々日に買い出し、前日に仕込み、そして開催する。

この青い所だけが会議です。会議は2カ月に2回だけで、やっぱり、あまり力を入れ過ぎると。各団体は、これを業務として携わってくださっています。ボランティアとして私に協力をしてきているのではなく、各包括さん・社協さん・くらしごとさんは業務として担当を決めて、きちんと携わってくださっているのです。そのようなところを普通の業務に支障をきたさないように、肩の荷が軽い状態で続けられるように2カ月に2回の会議で収めております。

これがだいぶ昔の会議風景ですけど、すごく和やかな感じですね。奥の方に地域の人、おばちゃん・おじちゃん。そして手前の方は包括さんです。奥の右手はくらしごとさん。手前に社協さん。これがこれまで大なり小なり関わってくださったところです。

チラシはこのように感じて配らせていただいております。これも「おてら食堂実行委員会」として予算を付けて、チラシを配るのではなく、各団体事業者様が自分の中の責任で、自分のできる範囲で告知して、チラシを配ってくださっております。当日は、『お寺の大広間を地域の居間に』がコンセプトとして、元町おてら食堂は、来た方みんな交流をしながら楽しく食事ができる場です。運営は地域ボランティアで成り立っています。スタッフと参加者の境目はありませんので、みんなで一緒に楽しい場所をつくりましょう。このようなコンセプトで行っております。やっぱりその場にいるすべての方々参加者であり、事業者です。もう、食事を提供する側・される側というような境目はなくそう。みんなで和やかに行おうというコンセプトをつくらせていただきました。

これは告知先です。

このような過去のデータもあります。これが、第1回です。2017年9月24日、参加者96名。僕は、おてら食堂を始めるとき30名～40名集まれば良いかな。それが毎月でもできれば、いろいろなお寺ででき

て、みんなが和やかに過ごせるのではないかと思っておりましたけれども、初回からいきなり96名集まりました。キャパの問題がありまして、皆さんにお願いをすることが心苦しくなりました、いまできるころは限られていますけれども、これが第1回目です。

第2回目、参加者74名。少々減ったなどお思いでしょうが、この時は釧路市内が「暴風雨警報」ということで、小中学校が臨時休校になりました。それくらい酷い雨風の日でした。前日までに仕込みをしていたので、「開店休業だね」ということで開店しました。フタを空けてみれば、もう雨風の中をびしょ濡れになりながら74名の方が集まってくださって、とてもありがたく感じました。

第3回、108名。この日は1月、お正月だったので子どもに餅をつかせて、会館のステージの上ではカルタを行いました。

第4回、106名です。これは3月8日、ひなまつりということで、ちらし寿司のようなメニューとパチンコの『夢屋』さんから賞味期限近くのお菓子を。何度か提供いただきましたね。そのお菓子を来た子どもたちに「おもちゃのお金でお買い物訓練をしてもらおう」と行って、左下の写真ですけども、子どもの相手をしております。

第5回、これは菅原さんの本行寺さんで行ったところです。参加者が爆発的に増え、240名です。これも右下でお買い物体験を行っています。左下では、あれがおもちゃのお金かな、子どもたちがみんな楽しんで遊んでおります。

第6回、これも本行寺さんです。参加者91名。この時あたりから「片隅で何かやらせてくれ」と。右上の写真、「大きい麻雀牌の麻雀をやろう」という人がいまして、やっていただきました。左上が、これは後に紹介しますが、「フットパス」という元町地域の街歩き団体、それを無理やりこのおてら食堂に合わせて開催し、街歩きを行った後にお昼をここで食べていただくというように、お寺をぞんぶんに活用していただきました。

第7回、273名です。ステージの上に卓球台を置いたり、このあたりからフリーマーケットを何軒か出すようになりました。ささやかな小物ですが。

第8回、これは西端寺さんです。この時もフリーマーケットの方々、そして子どもたちのお買い物体験。左下の写真の奥に子どもの居場所づくり「JUMPプラン」というものがありますけれども、これは北海道警察JUMP隊という学生ボランティアの方が来てくださって手伝っていただいております。

第9回、261名。これは大成寺です。これも1月だったので、餅つきをしてカルタ大会です。このあたりから、いろいろところで聞きつけた大学生が「手伝いたい」ということで集まってきまして、「どうぞ、子

ども担当でよろしくお願ひします」ということで子どもは大学生に任せたりしました。

第10回、これは道警さんで、子どもたちに警察のコスプレ衣装を着せて写真を撮ってあげるイベントを行いました。これは西端寺さんです。

これは、本行寺さん、228名。右下は「音別ふき露団」代表の伊藤まりさん。この時フキの即売会を行って、持ってきた分はすべて完売しました。

第12回、これは本行寺さんです。左下は道警マスコットキャラクターの『ほくとくん』が来てくれて、子どもの相手をしてくださいました。右上は、ほくとくんのぬりえです。

第13回、これは大成寺です。カレーを食べました。第14回、これも大成寺です。

第15回、217名。コロナ前の1月19日。この後、コロナ禍に突入します。釧路小にマスクキット300個を寄贈いたしました。

その2カ月後には、「おてら食堂を振り返る」ということで、各団体の広報チラシと、いままでどのようなことを行ったかのアンケートを書いたり、写真を添えて報告する、ということに登録していただいた方に送付させていただきました。

「居間で食事がありなら、居間で勉強もありだろう」と、元町おてら食堂ではなく、食堂の所に「×」を付けて講座として、郷土史家・佐藤宥紹先生や観光センターの木村さんや私が講師となって、『元町おてら講座』という講座を開かせていただきました。

「食事を提供することもやってみようか」ということで、昨年7月にテイクアウトでカレーをやってみました。でも、お寺の居間でくつろいでいただくことがコンセプトなので、食糧配給とは違う、ちょっとずれているね、ということでこのテイクアウトは1回で終わっております。

第16回、これが今年の1月9日。2組・入れ替え制で、50名50名の100名限定で、対策をして開催させていただきました。

過去のアンケートからこのようなアンケートがありました。下から3番目、「たくさんの方と一緒にご飯を食べることがあまりないので楽しかったです」、このように老人の方からいただくやあって良かったと思ひます。

これが、おてら食堂に関する新聞記事です。この「子ども食堂、昨年の1.6倍に」と。これは昨年新聞記事ですけれども。道内は1.4倍の161カ所、その下に「孤立防止も担う」と書いてあります。

私の中では、この孤立防止、この地域交流が主目的で、子ども食堂が従です。やっぱり人が集まって何かをする所に子どもが集まる、そのようなことを元から主眼としておりました。いうならば、子ども食堂という扱いであれば、西洋医学のピンポイント手術のようなも

のです。この下の「孤立防止・地域の居場所提供」とは、東洋医学の全体療法のような感じでしょうか。そのように考えておりますので、子ども食堂にも意味合いとして足を踏み入れております。

これは、いろいろなところで講演、ご紹介しましたよ、ということ。

もうひとつ、『くしろ元町てらこや』、これは大成寺の事業です。毎週土曜日12時30分から15時まで、地域の子どもたちを集めて開いております。民生委員さんのご了解、地区町内会のご協力、おてら食堂のキッチンスタッフさんも手伝いに来てくださいます。教育大学釧路校の地域・環境教育専攻地域教育分野という難しい所からゼミ生が毎週10名ぐらい、多い時は14名~15名が来て子どもたちの世話をしてくださっております。

これは、始めた時の告知記事です。釧路明照幼稚園は昭和30年に大成寺第6世住職の藤井正亮が始めました。終戦より数年が経ち、復興の機運が高まっていたころでした。先に各宗連合の仏教協和会が仏教幼稚園を富士見町に設立していましたが、6世住職は「いわゆる下町地区にこそ教育が必要だ」と、大成寺の境内で釧路明照幼稚園を始めました。その幼稚園が少子化と地域情勢の変化により平成30年に64年の歴史に幕を下ろしました。長きに亘り地域に親しまれた幼稚園の設立時からの指針「あかるく・ただしく・なかよく」をいまに引き継ぎ、広い園舎と広大な園庭を子どもたちと地域の方のために活用することが一番良いことだと思ひます。ということで、「てらこや」を始めた動機でございます。

これが、『Haport』さんに紹介をした記事です。閉園した幼稚園の施設や用具、広い園庭をそのまま活用しています。子どもに限らず地域の居場所をつくる活動として大成寺が園舎を開放しています。教育大生のゼミ活動の場ともなっており、学生が毎回参加をして、時には企画をし、子どもたちと関わってくれます。勉強も教えてくれます。地域の大人もお茶を飲みながら子どもたちを見守ります。「何かさせる」という場所ではありません。これが大事なのです。何かをさせる場所ではないですね。家族以外の大人、歳の違う友だち、知らない友だちと一緒に過ごす中で、子ども自身が考え、解決し、成長する場所を目指しています。就学前のお子さんとは責任者同伴でお願いしています。というような意味合いで行っております。

これが、幼稚園と園庭で、教室とホールです。これは大学生が子どもたちと一緒に縄跳び、奥の方では跳び箱をしています。マットも出しています。柔らかい積み木で子どもたちと遊んでいる様子です。これは教室で黒板に落書きをしています。

これは夏に行った花火大会です。この時も子どもだけで30名ぐらい。親御さんを合わせると60名~70名、

もっとかな。ご両親が集まって本当に夏らしい花火大会でした。

これは暗くなってから園舎をお化け屋敷にして「きもだめし」の大会です。学生さんがいろいろなことを考えて脅かしてくれました。これはクリスマスです。スノードームのようなものをペットボトルで作った時です。スライドを見たり、これは学生さんが企画をしてみんなで遊ぼうということで遊んでくれました。多い時では、子どもたちが30名ぐらい、1クラス分ぐらい来ます。ですから10名ぐらいの学生さんが来てくださるととても助かります。

それと「元町講座」の活動。これは遊郭を特集した時の講座で、160名ぐらい集まりました。この時も北陽高校の放送部に協力をいただき進行をしていただきました。これはコロナ禍で少し席数を減らして行いました。これも大学の先生に1コマを持ってもらって社会的な見地から、この元町のことについて発表をしていただきました。これもディスカッションです。郷土史家・佐藤宥紹先生、左側には釧路公立大学の神野先生です。右側には生徒と地域の方でディスカッションを行いました。

これがつい先日、2月27日に行い新聞記事に載った元町講座です。これには、釧路北陽高校の放送部、湖陵高校の放送部、そして釧路公立大学の神野ゼミの3年生・4年生が2組ずつです。公立大学の北島ゼミの3年生から2組、卒業の研究発表ということで場を設けました。これが元町講座です。

これが「フットパス」。これが街歩きです。これは高校生と大学生共同の街歩き、「元町界隈を歩こう」と行いました。これは灯台の裏の所で説明を受けているところです。終わりにお寺の会館でディスカッションを行います。これは一般の方を招いた時、このような食事会をしたり。この時は、米町公園に集合して弁天ヶ浜の清掃活動を行いました。

このようなことが私の活動ですけれども、この『青年団活動』を始めとして、『おてら食堂』『てらこや』『元町講座』『フットパスを広め隊』、そのような活動はそ

れぞれが独立しているわけではありません。執行部や参加者や学生ボランティアなどがお互いにいろいろなところで重複し合っています。これ1つ取ってどうだということではありません。これが、この元町の地域でいろいろなところで活動をしていることが、この地域に住む人々にとって、「生きている街に住んでいる」と評価されるのではないかと考えております。「地元」に根を張る」という言葉がありますけれども、根を張るには、足元でなければ根は張れません。土の中は潜りこんで行かなければならない。その土というのは、そこに住む人々なのです。その人の中に自分自身が飛び込んで行かないと木として大きく成長することはできないと思います。その木の日陰の下で、遠くから来る方々もそこで一息付けるような場所をつくるということ。そのような大きな木がいろいろ重なり合うことで、ひとつの地域が温かく活動的になっていくのではないかと思います。

これはバラバラですけれども、これを無理やりひとつにまとめない。ひとつにまとめて責任を負ってしまうと、疲れた時にもう終わりになってしまいます。ですから、できるだけ・できる限り・できるときに・できる人がこのようにひとつの地域を活性化するという漠然とした目標の中で協力をさせていただくということは、持続可能なSDGsの精神にもつながるのではないかと思います。

このようなことは、お坊さんの視点や僧侶の視点など、いろいろなことから話をすればもう話は尽きませんが、この辺で終わらせていただきたいと思います。これからも、ここにいる皆さまのご協力をいろいろ仰ぎたいと思いますけれども、何かありましたらお気軽に声をかけていただきたいと思います。どうぞよろしくお祈りします。

以上で終わります。失礼いたします。ありがとうございました。

本日のニコニコ献金

- 杉村 莊平君 三月になりました。引き続きよろしくお祈りいたします。
- 栗林 定正君 五輪女子アイスホッケー 浮田留依選手、中島谷友二郎コーチ 隔離を終え、無事帰って着ました。改めて応援ありがとうございました。
- 藤井 敬亮君 新聞に掲載されました。本日も宜しくお祈り致します。
- 中村 司君 夫婦で今月誕生日です。

今年度累計 478,000円